

# 令和元年度【研究指導】受入実績

## ■概要

学生・院生の研究利用・指導として、菅平高原実験所では29研究課題(学外:15、学内:14)、八ヶ岳演習林では22研究課題(学外:8、学内:14)、井川演習林では8研究課題(学外:4、学内:4)、筑波実験林では13研究課題(学外:0、学内:13)を受け入れた。

## ■受入実績一覧

学外学生の研究課題のみ記入。

研究課題名	概要
1 植物見本園の植物季節性生態研究	筑波大学・生命環境科学研究科院生による修士研究(4/8, 11, 17, 23, 29, 5/1, 8, 13, 15, 28, 29, 6/5, 11, 19, 26, 7/2, 10, 15, 19, 31, 8/9, 14, 21, 27, 9/3, 12, 17, 25, 10/2, 9, 16, 23, 30日, 11/6, 13, 21, 27, 12/4, 11, 18, 27, 29, 1/1, 8, 14, 22, 29)(1名×47日)(筑波実験林)
2 キバチ類と寄生蜂類に関する行動生態学的研究	筑波大学・生命環境系研究員による調査(4/1-1/31の55日)(1名×55日)(筑波実験林)
3 ホソミオツネトンボの体色変化に関する研究。オオアオイトトンボの産卵基質選好性に関する研究	筑波大学・生物学類学生の卒業研究。(4/1-9/30の1日)(1名×1日)(筑波実験林)
4 クモ類とその餌生物のサンプリング	筑波大学・生命環境科学研究科院生による修士研究(4/1-9/30の36日)(1名×36日)(筑波実験林)
5 竹林の分光反射特性における季節変動の調査	筑波大学・生命環境科学研究科院生による修士研究(5/27-7/31)(1名×66日)(筑波実験林)
6 自動撮影カメラの検知範囲推定の予備調査	筑波大学・生命環境科学研究科院生による修士研究(5/31, 6/14)(1名×2日)(筑波実験林)
7 植物見本園の代表的な樹種の季節変化	筑波大学・生物資源学類学生の卒業研究(5/30-2019/9/30の15日)(1名×15日)(筑波実験林)
8 樹皮の形態による樹幹流成分の動態を探る	筑波大学・生命環境科学研究科院生による修士研究(7/2,3,25,8/12,13,14, 9/6,7, 14,23)(1名×10日)(筑波実験林)
9 外来種キョンの伊豆大島における食性	筑波大学・生命環境科学研究科院生による修士研究(2019/7/16, 10/15, 16, 30, 11/6, 2020/1/6, 8, 16, 17, 22, 23)(1名×11日)(筑波実験林)
10 アブラゼミの性成熟プロセスに樹種が与える影響	筑波大学・生命環境科学研究科院生による研究(7/18-8/17の22日)(2名×22日)(筑波実験林)
11 RTK電子基準点の設置テスト・運用テスト	筑波大学・人間総合科学研究科の院生及び株式会社ウエモコディレクター所属の産学連帯客員研究員による研究利用(2名×8日)(4/4-4/11)(八ヶ岳演習林)
12 伐採試験地におけるネズミ、コウモリ、ヤマネ調査の下見	筑波大学・生命環境系教員及び生命環境科学研究科の院生、生物資源学類の学部生による研究利用(4名×1日)(3名×2日)(4/19, 5/22-5/23)(八ヶ岳演習林)

13	カラマツ人工林における小規模皆伐がヤマネの生息に与える影響	筑波大学・生命環境科学研究科の院生、弘前大学・農学生命科学部の学部生による研究利用(1名×4日)(3名×4日)(1名×4日)(1名×3日)(1名×6日)(1名×4日)(1名×4日)(4/22-4/25、5/28-5/31、7/2-7/5、7/31-8/5、8/27-8/30、9/24-9/27)(1名×3日)(3/16-3/18)(八ヶ岳演習林)
14	人工林景観における皆伐がヒメネズミに及ぼす影響・皆伐地周辺の林縁部と林内にシャーマントラップとヤマネのお宿を架設し、それぞれの捕獲数や環境変数を比較し、皆伐の影響を検討する	筑波大学・生物資源学類の学部生による研究利用(1名×3日)(1名×4日)(1名×4日)(2名×4日)(1名×4日)(1名×4日)(1名×3日)(1名×4日)(4/23-4/25、5/28-5/31、7/2-7/5、7/30-8/2、8/28-8/31、9/30-10/3、10/16-10/19)(1名×3日)(3/16-3/18)(八ヶ岳演習林)
15	コウモリの音声データによる皆伐地と森林の比較・皆伐地と林内にバットディレクターを設置して音声データを記録し、数や季節変化について比較する	筑波大学・生物資源学類学部生による研究利用(1名×3日)(1名×4日)(1名×4日)(1名×2日)(1名×3日)(1名×4日)(4-23-4/25、5/28-5/31、7/2-7/5、8/8-8/9、8/28-8/30、9/24-9/27)(2名×3日)(3/16-3/18)(八ヶ岳演習林)
16	八ヶ岳演習林を利用した気象観測	筑波大学・生命環境科学研究科の院生及び茨城大学・理工学研究科の院生による研究利用(2名×1日)(5/3)(八ヶ岳演習林)
17	八ヶ岳演習林における毎木調査	筑波大学・生命環境系の教員及び生物資源学類の学部生による研究利用(3名×2日)(5/16-5/17)(八ヶ岳演習林)
18	同位体分析用降水サンプルの回収(長期降水同位体モニタリング)	筑波大学・生命環境系教員及び、生命環境科学研究科院生、地球学類学部生による研究利用(1名×1日)(4名×1日)(2名×2日)(1名×1日)(6/1、8/2、9/1-9-2、1/1)(八ヶ岳演習林)
19	林間タワーに機器を設置した気象観測	筑波大学・生命環境系教員及び生命環境科学研究科の院生、地球学類の学部生による研究利用(1名×1日)(3名×1日)(2名×1日)(1名×1日)(6/23、8/7、9/2、11/27)(6名×1日)(2/17)(八ヶ岳演習林)
20	樹皮の形態による樹幹流成分の動態を探る	筑波大学・生命環境科学研究科の院生による研究利用(1名×4日)(7/1-7/4)(八ヶ岳演習林)
21	八ヶ岳周辺でのモミとオオシラビソの研究材料採取	筑波大学・生命環境系教員及び生命環境科学研究科の院生、生物資源学類の学部生による研究利用(3名×2日)(7/7-7/8)(八ヶ岳演習林)
22	藻類を中心とした原生生物の多様性調査と、原生生物を内部共生する動物及び植物の探索	筑波大学・生命環境系の教員及び生命環境学群生物学類の学部生による研究利用(3名×1日)(7/18)(八ヶ岳演習林)
23	演習林の更新伐に関する業務打ち合わせ並びに現地調査	筑波大学・生命環境系教員及び生命環境科学研究科の院生、山岳科学学位プログラムの院生による研究利用(5名×3日)(7/22-7/24)(八ヶ岳演習林)
24	カラマツ林の林冠における競争特性に関する研究のためのドローン空撮及び地上観察	筑波大学・生命環境科学研究科の院生による研究利用(1名×3日)(7/24-7/26)(八ヶ岳演習林)
25	八ヶ岳演習林周辺における森林と草地における生物多様性に関する調査	筑波大学・生命環境科学研究科の院生及び一般による研究利用(2名×3日)(8/7-8/9)(八ヶ岳演習林)

26	モミ属を加害するキクイムシ類の調査	首都大学東京・都市環境学部・都市環境科学研究科の教員及び院生による研究利用(2名×1日)(1名×1日)(2名×2日)(3名×4日)(4/18、5/16、7/8-7/9、11/5-11/8)(八ヶ岳演習林)
27	冷温帯落葉広葉樹林代償林及び冷温帯落葉針葉樹林における蒸発散量の直接計測	東京農業大学・地域環境科学部の教員及び学部生による研究利用(6名×6日)(3名×2日)(5名×2日)(3名×2日)(2名×2日)(4名×2日)(3名×2日)(3名×2日)(2名×2日)(2名×2日)(2名×2日)(3名×2日)(4名×3日)(4/21-4/26、5/14-5/15、5/21-5/22、6/4-6/5、6/18-6/19、7/2-7/3、7/16-7/17、8/5-8/6、8/29-8/30、9/26-9/27、10/23-10/24、11/27-11/28、12/17-12/19)(八ヶ岳演習林)
28	カバノキ属の花粉生産量に関する研究・ダケカンバ林にリタートラップを12基設置	京都府立大学・生命環境科学研究科の教員、研究員、学部生及び滋賀県立琵琶湖博物館の学芸員による研究利用(4名×2日)(1名×1日)(2日×5名)(5名×1日)(4/25-4/26、5/30、8/1-8/2、11/5)(八ヶ岳演習林)
29	花と花粉媒介者の相互作用の調査	神戸大学・大学院農学研究科の院生による研究利用(1名×4日)(5/20-23)(八ヶ岳演習林)(八ヶ岳演習林)
30	カラマツ林の土壌有機炭素蓄積量の高精度推定に関する研究	筑波大学・生命環境系教員、筑波大学・生命環境科学研究科・院生、神戸大学・農学部教員、神戸大学・農学研究科・院生、岐阜大学・流域圏科学研究センター教員、東京農業大学・農学部教員、院生、学部生、日本大学・生物資源学部教員、滋賀県立大学・環境学部教員・学部生、国立環境研究所による研究利用(5名×2日)(23名×6日)(9名×7日)(6名×3日)(2名×2日)(7/31-8-5、11/25-12-1)(八ヶ岳演習林)
31	自動巣箱撮影法を用いたニホンヤマネ(Glirulus japonicus)の樹高による活動性の比較	東京農業大学・農学部の学部生による研究利用(1名×3日)(1名×3日)(3名×2日)(1名×3日)(5名×2日)(1名×3日)(1名×2日)(2名×2日)(3名×2日)(1名×2日)(6/20-22、7/10-7/12、8/5-8/6、9/11-9/13、10/9-10/11、11/21-11/22)(八ヶ岳演習林)
32	ドローンを用いた航空測量による森林資源量の測定	富山大学・研究推進機構極東地域研究センターの教員及び富山大学・理工学教育部の院生による研究利用(2名×1日)(2名×3日)(2名×2日)(6/25-6/28、10/31-11/1)(八ヶ岳演習林)
33	植物観察と採集を伴う野外ゼミ	神奈川大学・理学部生物科学科の教員及び学部生、東京学芸大学の院生による研究利用(13名×1日)(8/7)(八ヶ岳演習林)
34	大起伏山地における洪水流出特性	筑波大学・大学院生命環境科学研究科の院生と教員による研究利用。(2名×2日)(4/24-4/25)、(2名×3日)(5/20-5/22)、(2名×4日)(9/17-9/20)(3名×4日)(9/24-9/27)、(2名×2日)(10/17-10/18)、(1名×4日)(11/4-11/7)、(3名×3日)(3/9-3/11)(井川演習林)
35	樹皮の形態による樹幹流成分の動態	筑波大学・大学院生命環境科学研究科の院生と教員による研究利用。(2名×4日)(6/9-6/12)、(2名×3日)(9/10-9/12)(井川演習林)
36	湧水・溪流の水文調査	筑波大学・大学院生命環境科学研究科の院生と教員による研究利用。(5名×3日)(6/19-6/21)、(1名×2日)(10/17-10/18)、(2名×5日)(11/25-11/29)(7名×4日)(2/17-2/20)(井川演習林)
37	井川演習林および周辺地区の視察	筑波大学・生命環境系の院生と教員による現地視察(3名×1日)(9/3)(井川演習林)
38	オオシラビソ等の分布調査	筑波大学・大学院生命環境科学研究科の学生と教員による研究利用。(2名×3日)(9/26-9/28)(井川演習林)
39	森林植生が斜面安定に及ぼす影響の評価に関する現地調査	静岡大学・農学部の学生、総合科学技術研究科の院生と教員による研究利用。(7名×1日)(4/1)、(6名×1日)(4/3)、(5名×1日)(4/19)、(4名×1日)(4/23)、(2名×1日)(7/3)(井川演習林)
40	標高に応じた樹木多種の葉の形質の変化	名城大学・農学部の学生と教員による研究利用。(3名×3日)(6/27-6/29)、(4名×7日)(9/6-9/12)(井川演習林)
41	山村住民の農耕における伝統知と食文化一継承された作物	総合研究大学院大学・文化化学科地域文化化学専攻の院生による、葵区井川、田代、上坂本、小河内および安倍川上流の大沢地域の在来作物の聞き取り調査、畑の観察による研究利用(1名×4日)(8/1-8/4)(井川演習林)

42	井川演習林内での崩壊発生状況についての現地調査	静岡大学・総合科学技術研究科の院生と教員による研究利用。(3名×1日)(9/10)、(3名×1日)(9/27)(井川演習林)
43	自然との関わりの場である山岳地域における事故や遭難防止などの安全管理	筑波大学・生命環境科学研究科の院生による利用。増加の一途をたどる山岳遭難事故の発生要因等をその動態も含めて統計解析することで、その減少に寄与する。またこれにより人々が自然に触れる機会を増やすことにより、山岳国・日本の社会と山、そしてその自然を結ぶ。(1名×6日)(4/14-4/19)、(1名×4日)(5/13-5/16)、(1名×5日)(6/17-6/21)、(1名×3日)(10/30-11/1)、(1名×4日)(11/26-11/29)、(1名×4日)(1/27-1/30)(菅平高原実験所)
44	熱帯性・温帯性カワアナゴ属魚類の黒潮圏における景観ゲノミクス	筑波大学・生命環境科学研究科の院生による利用。地球温暖化に伴う海流変動による海流分散魚類への影響予測を最終目的として、黒潮沿いに分布するカワアナゴ属魚類を対象に集団遺伝学および形態学的研究を行い、過去～現在の遺伝構造・集団動態の歴史を解明する。(1名×5日)(4/15-4/19)、(1名×4日)(5/13-5/16)、(1名×3日)(6/19-6/21)、(1名×3日)(11/27-11/29)(1名×4日)(2月25日-28日)(菅平高原実験所)
45	アカマツ林の樹液流速と土壌呼吸の時間変動とその要因	筑波大学・生命環境系教員と生命環境科学研究科院生・生命環境学群学部生による利用。土壌呼吸速度の時間的変動が地温だけでなく、樹木の生理活性にも依存していることを検証するため、樹液流速と土壌呼吸速度、環境要因を観測し、観測タワーにおいてアカマツの光合成測定とフェノロジー観測を行って明らかにする。(3名×3日)(4/24-4/26)、(3名×3日)(5/22-5/27)、(2名×3日)(6/25-6/27)、(1名×2日)(7/8-7/9)、(1名×4日)(7/8-7/11)、(1名×10日)(7/8-7/17)、(1名×5日)(7/22-7/26)、(3名×5日)(8/5-8/8)、(1名×11日)(9/9-9/19)、(1名×4日)(10/1-10/4)、(1名×2日)(10/10-10/11)、(1名×1日)(11/15)(菅平高原実験所)
46	カオジロショウジョウバエ類の分布調査	筑波大学・生命環境科学研究科の院生による利用。(1名×3日)(5月15日-17日)(菅平高原実験所)
47	草原利用における適正な攪乱強度の検証・オオブタクサの生育地選好性に関する研究	筑波大学・生命環境系教員と生命環境科学研究科院生・生命環境学群学部生による利用。フラビの選択的除去試験を実施し、群落構造および種多様性への影響を検証する。オオブタクサが侵入する環境を明らかにする。(3名×1日)(5/17)、(1名×4日)(9/10-9/13)、(2名×6日)(9/10-9/16)(菅平高原実験所)
48	樹木のフェノロジー変化・積雪の有無による森林内外の大気への影響	筑波大学・生命環境系教員と生命環境科学研究科院生・生命環境学群学部生による利用。林冠観測タワーを使用した鉛直気温分布の観測(1名×1日)(5月29日)(3名×1日)(9月24日)(2名×1日)(10月23日)(3名×1日)(11月11日)(1名×1日)(11月27日)(3名×2日)(1月6日-7日)(菅平高原実験所)
49	実験所内二次林の森林構造の把握および森林動態モニタリング	筑波大学・生命環境科学研究科の院生による利用。遷移過程にある二次林の森林構造や機能がどのように変化していくかをモニタリングすることで明らかにしていく。(1名×2日)(6月13日-14日)(菅平高原実験所)
50	昆虫の内部構造についての研究	筑波大学・生命環境学群の学部生による利用。(1名×28日)(7月9日-8月5日)(菅平高原実験所)
51	藻類を中心とした原生植物の多様性調査。原生生物を内部共生する動物および植物の探索	筑波大学・生命環境系教員と筑波大学・生命環境学群学部生による利用。(3名×2日)(7月18日-19日)(6名×2日)(2月15日-16日)(菅平高原実験所)
52	節足動物多足類の頭部内骨格系の比較形態学的研究	筑波大学・生命環境学群の学部生による利用。(1名×13日)(7月29日-8月10日)(菅平高原実験所)
53	草原の全生物群多様性観測にむけた研究会議	筑波大学の教員と院生、北里大学の教員と研究員、京都大学の教員、金沢大学の教員、鹿児島大学の教員、森林総合研究所の研究員による利用。(11名×2日)(8月15日-16日)(菅平高原実験所)
54	菌類・発酵食品に関する研究	筑波大学・教育研究科の院生による利用。(1名×7日)(8月29日-9月4日)(菅平高原実験所)

55	ハナバチ個体に対する 農業評価の影響測定 および花粉団子成分 の同定	筑波大学・生命環境系教員と・生命環境学群学部生による利用。(2名×1日) (9月3日)(菅平高原実験所)
56	菌学教育普及のための 教材開発	筑波大学・教育研究科の院生による利用。菌学を普遍的に学習するための方法 や機会について、教材開発という手段を用いて研究し、最終的な菌学の普及 や、今後の研究のためのデータを得ることを目的とする。(1名×4日)(12月17 日-20日)(菅平高原実験所)
57	インド西ガーツ山脈に 分布するクロコショウ の遺伝構造および集 団動態の歴史の評価	Ashoka Trust for Research in Ecology and the Environmentの院生による利 用。(1名×8日)(4/1-4/8)(菅平高原実験所)
58	モミ属を加害するキク イムシ類の研究	首都大学東京・都市環境学部の教員と院生による利用。モミ属を加害するキク イムシ類の寄主特異性を明らかにする。(3名×3日)(4月8日-10日)(3名×2 日)(4月17日-18日)(1名×2日)(5月15日-16日)(3名×4日)(7月5日-8日)(2 名×3日)(7月30日-8月2日)(1名×1日)(8月20日)(3名×5日)(10月3日-7 日)(1名×1日)(11月6日)(菅平高原実験所)
59	ササが生育する環境 及び周囲の植生に与 える影響	首都大学東京・都市環境学部の教員と院生・学生による利用。ササが他の木 本種や草本種の分布に与える影響や、ササの優占地と他の木本種の優占地 における地形的特徴や土壌的特徴を調査し、比較すること。また、ササが自生 している地点とそうでない地点の種の多様性を比較する。(1名×3日)(6月21 日-23日)(2名×4日)(6月21日-24日)(2名×3日)(8月27日-29日)(1名×3 日)(10月24日-26日)(1名×7日)(10月24日-30日)(1名×8日)(10月24日-31 日)(菅平高原実験所)
60	植物の花の形が送粉 者との相互作用や種 子生産に与える影響 の把握・スキー場草原 における草原生植物 の埋土種子調査およ び花形質の測定	神戸大学・人間環境学研究科の教員と院生、国際人間科学部の学部生、富山 大学理学部の教員と学部生、東邦大学理学部の教員、大阪市立自然史博物 館の研究員、筑波大学生命環境学群の学部生による利用。開花植物の多いダ ボススキー場を中心に、開花植物の花の形態測定、花の乾重測定、花香の採 集、送粉者の分類群組成、生産花粉・花蜜量測定、および開花密度を調査す る。(7名×3日)(5月24-26日)(1名×7日)(6月25日-7月1日)(5名×3日)(6月 26日-28日)(1名×5日)(7月22日-26日)(1名×4日)(7月23日-26日)(2名×3 日)(7月23日-25日)(2名×4日)(7月29日-8月1日)(4名×3日)(7月30日-8月 1日)(4名×2日)(8月29日-30日)(1名×8日)(9月8日-15日)(1名×4日)(9月 10日-13日)(1名×3日)(9月12日-15日)(3名×4日)(9月12日-15日)-15日) (1名×3日)(9月13日-15日)(5名×3日)(9月24日-26日)-26日)(菅平高原実 験所)
61	絶滅危惧種キキョウを用 いて、花の向きと送粉 者の訪花頻度および 降雨による繁殖成功 の低下との関係を野外 調査と実験により検証 する	神戸大学・人間環境学研究科の院生による利用。キキョウと送粉者の関係や 繁殖様式、花の向きの適応的意義について研究を行うことにより進化する生態 学的にも新規性の高い知見を得る。絶滅の危機が迫る本種に関する理解を深 め、保全への提言をする。(1名×4日)(8月3日-6日)(1名×7日)(8月3日-9 日)(菅平高原実験所)
62	植物-動物の相互作 用の調査	神戸大学・農学研究科の院生による利用。実験センターに生育する植物を対 象として、花と花粉媒介者の関係を調査する。(1名×4日)(5月24日-27日)(1 名×3日)(9月12日-14日)(菅平高原実験所)
63	シロアリモドキ目の発 生学的研究	愛媛大学・理工学部研究科の教員と院生、理学部の学部生による利用。(2名 ×5日)(9月24日-28日)(1名×7日)(1名×12日)(9月24日-10月5日)(菅平高 原実験所)
64	千曲川における特定 外来種コクチバスの環 境社会学的研究	明治大学・農学部の学部生による利用。千曲川で分布拡大するコクチバスの 流域社会への影響、地元漁協らの取り組みなどについて評価し、特定外来種 の管理について環境社会学的視点から考察を行う。(1名×3日、4日、16日、4 日、5日、2日)(6月19日-21日、7月16日-19日、9月2日-17日、9月25日-28日、 10月29日-11月2日、11月21日-22日)(菅平高原実験所)

65	落葉・枝・生葉混合によるリター分解への影響	横浜国立大学・環境情報研究室の教員と環境情報学府の院生による利用。落葉に枝や生葉を混在した場合のリター分解を調査することで、林床で実際に起きているリター分解および土壌生物や林床土壌への影響を解明する。(2名×2日)(7月24日-25日)(1名×8日)(10月21日-28日)(2名×2日)(11月7日-8日)(2名×2日)(12月10日-11日)(菅平高原実験所)
66	土壌動物(トビムシ目)のDNAバーコーディング	横浜国立大学の教員と院生による利用。トビムシ目のDNAバーコーディングを可能にするために、標本を採集し、DNA塩基配列を決定し、データベースに登録する。(3名×2日)(6月26日-27日)(菅平高原実験所)
67	イタドリイタドリ褐色円斑病菌の分類学的再検討	東京農業大学・国際農業開発学科の教員と学部生による利用。園内で観察されるイタドリの病害標本を収集し、系統学的位置の把握する。(2名×1日)(8月6日)(菅平高原実験所)
68	ヤシ科植物に関わる菌類の多様性	Royal University of Phnom Penh の院生による利用。菅平高原実験所内をタイプロカリティとするススカビの現状の把握。(1名×145日)(11/8-3/31)(菅平高原実験所)
69	ムクドリ餌場誘引野外実験	筑波大学・生命環境科学研究科院生による修士研究(2/27-3/16)(筑波実験林)
70	外来種キョンの伊豆大島における食性	筑波大学・生命環境科学研究科院生による修士研究(2/27-3/16)(筑波実験林)
71	全国スケールの相互移植による気候変動が樹木に及ぼす影響モニタリング調査	筑波大学・生物資源学類学生による卒業研究(3/18, 19, 20, 21, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 30, 31)(筑波実験林)
72	積雪上降雨に関する研究	筑波大学・生命環境系教員と生命環境科学研究科院生・生命環境学群学生による利用。雪氷気象観測。(3名×2日)(1/6-1/7)、(1名×2日)(2/21-3/2)、(3名×1日)(2/28)、(3×1)(3/19)(菅平高原実験所)
73	アルペンスキー・ジャイアントスラロームにおける速度維持動作のキネマティック的研究	筑波大学・人間総合科学研究科体育学専攻の院生による利用。様々な競技レベルのスキーヤーをビデオ撮影し、獲得した各関節点の座標情報を用いて、それぞれの競技者の動作を比較することで、速度を維持するための動作の特徴を明らかにする。(8名×2日)(2/27-2/28)(菅平高原実験所)
74	雌雄異株樹木の進化と個体維持に関わる生態特性の解明	大阪市立大学・大学院理学研究科の院生による利用。多様な性表現を持つカエデ属の系統と性表現の関係を解析し、カエデ属における性表現の進化経路を明らかにする。(1名×1日)(5/31)(菅平高原実験所)
75	千曲川における特定外来種コケチバスの遺伝構造	北海道大学・農学院の院生による利用。遺伝データ解析および論文執筆。(1名×18日)(2/17-3/5)(菅平高原実験所)